

目的 ギャザースカートの静的シルエットは、 $\sqrt[3]{B/W}$ 、 $\sqrt{2HB/W}$  (B布の曲げ剛性、2HB曲げヒステリシス幅、W単位面積当りの重量)などのパラメーターによって決定されることがこれまでのシルエットの計測による研究でわかっている。本報では、ギャザースカートの着用感に及ぼす布の力学特性の影響を明らかにするため、力学特性の異なる布で製作した同一丈、同一ギャザー分量のスカートの視覚による官能検査と着用による官能検査を行い、官能評価値と布の力学特性との関係について検討した。

方法 官能検査は、女子学生(18~20才)および縫製の専門家1名の被験者により、重い、ふっくらしている、まとわりつく、ちくちくするなどギャザースカートのシルエットと着用感に関係あると思われる16項目について5段階評価を行った。視覚による官能検査は、力学特性の異なる24種のギャザースカートを選定し、標準体型のモデルに着用させて一定の距離から観察し、各項目の評価を行った。着用による官能検査は、選んだギャザースカートを各被験者が着用し、1階の階段昇降を含む80mの歩行の後評価を行った。

結果 SD法により求めた官能評価値を因子分析した結果、ふっくらした、こしがある、ごわごわしたなど布の曲げ特性と直接関係のあるグループと、まとわりつく、フォーマルな、総合的に良いなど複数の要因からなる感覚のグループに分かれた。視覚と着用感では、着用した方が強い感覚の評価結果を得た。 $\sqrt[3]{B/W}$ 、 $\sqrt{2HB/W}$ は、ほとんどの項目で、評価値と強い相関を示し、まとわりつく、しなやか、総合的な良さには、曲げ特性とせん断特性の影響が大きいことが明かとなった。